

13
下
聖徒伝 112

「その信仰は 偽善か真実か」

イザヤ書29章 アリエル・エルサレムの過去・現在・未来

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. エルサレムの過去・現在・未来


II. エルサレムの苦難 29:1~16

III. エルサレムの回復 29:17~23

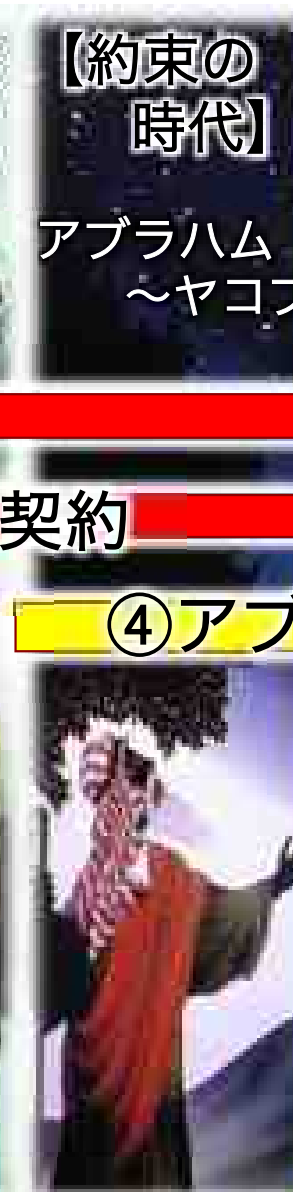
IV. まとめと適用

偽善と決別し

残れる信仰者として歩もう



エルサレムの城壁とアーモンド



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

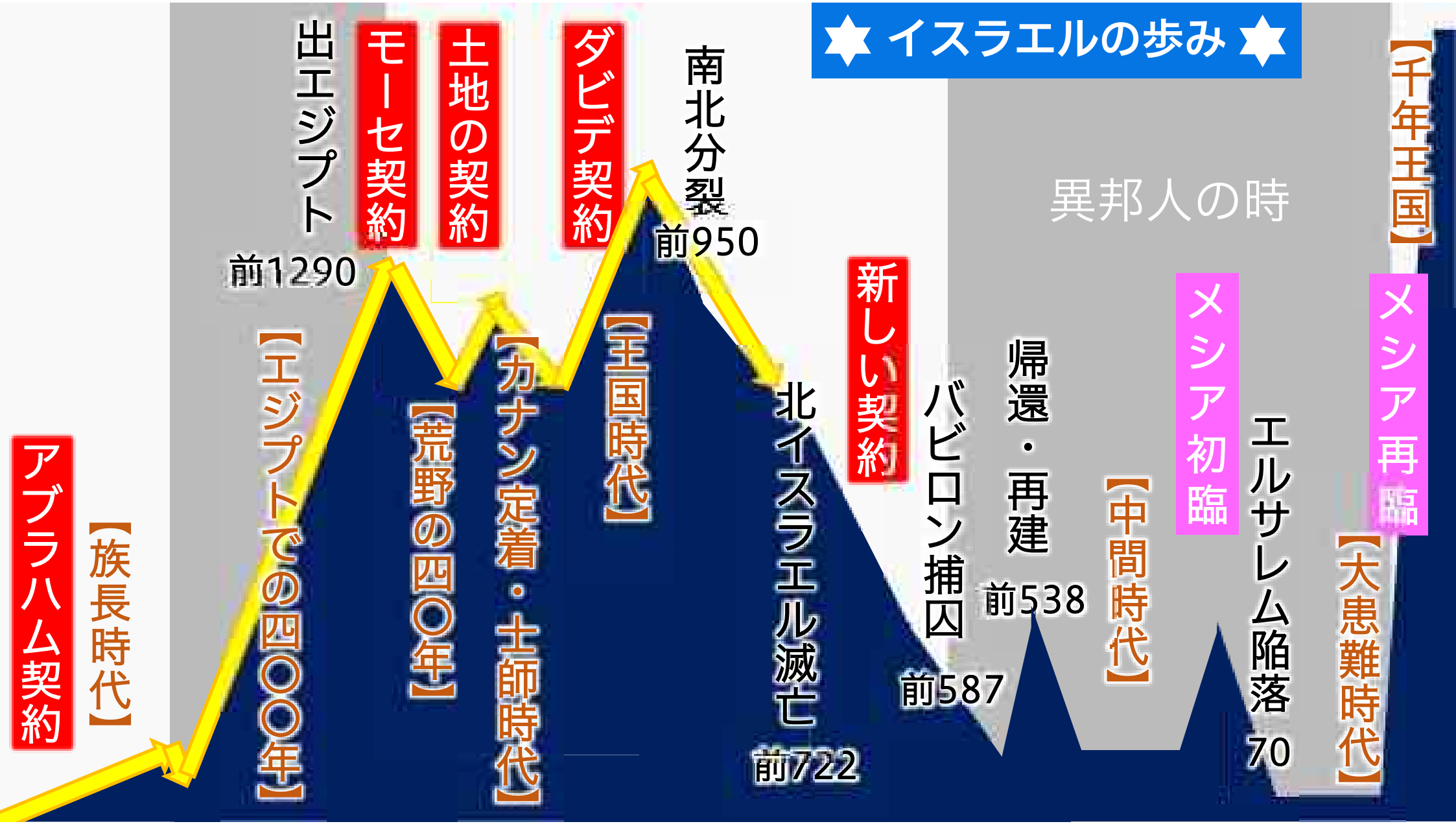
神の約束こそが
その時代の守り

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

前1290

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

イザヤ書とは？

■ 著者

…預言者イザヤ = “ヤハウェは救い”

■ イザヤの活動

…エルサレムの都
60年間で4人の王に仕えた。

■ 時代背景

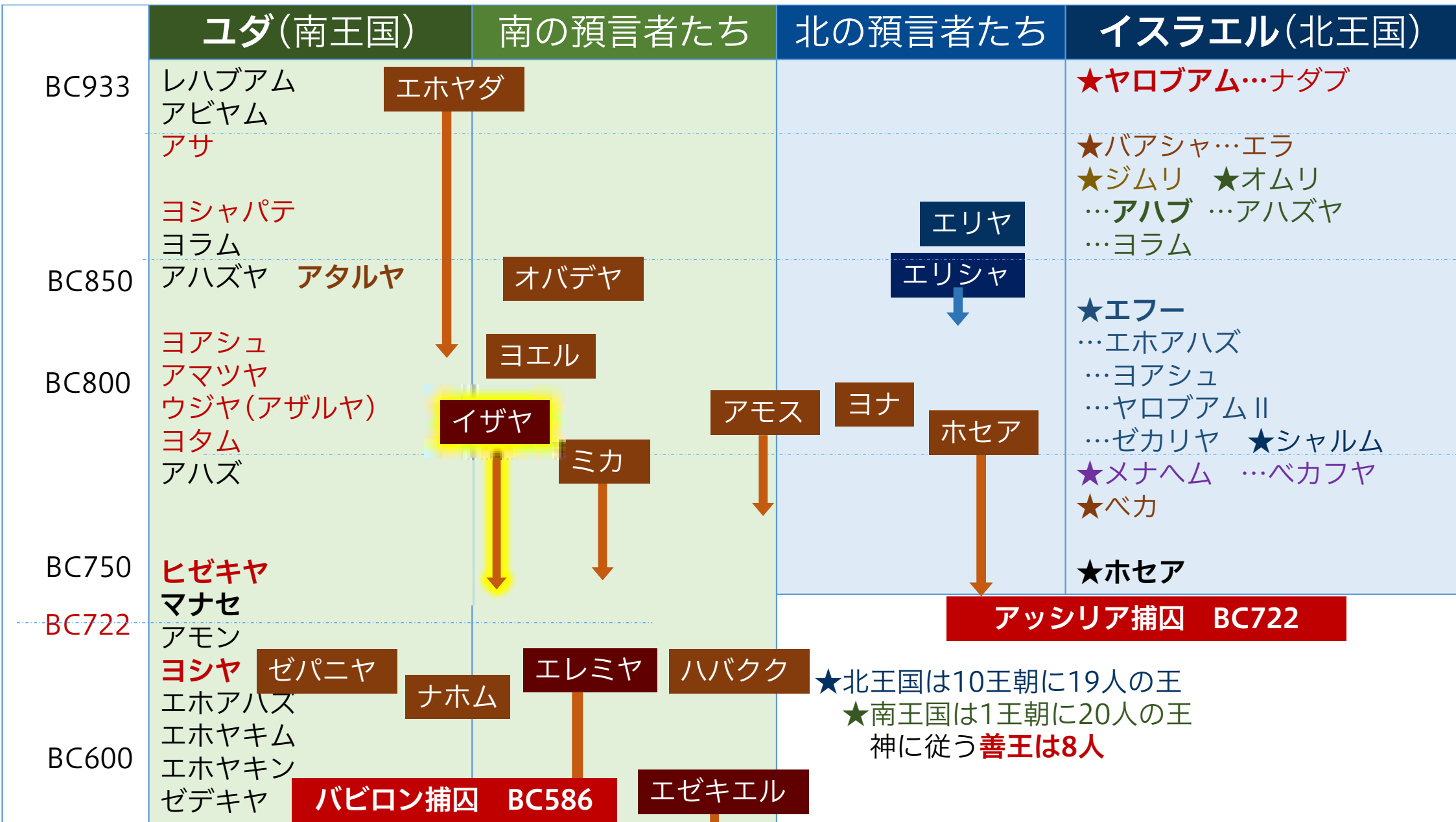
…北王国の滅亡。アッシリアの脅威。

■ 内容

- …
- ❶ 差し迫った危機の警告
 - ❷ 世の終わりの裁き・大患難
 - ❸ イスラエルの最終的回復

イザヤ書は、世の終わりの時代の必読書!!





北王国イスラエル

南王国ユダ

ホセア

アモス

ベカ 20年

ホセア 9年

混沌の時代

アッシリア捕囚①

アッシリア捕囚②

滅亡の時代

ヤロブアムⅡ 41年

ゼカリヤ 6ヶ月

シャルル 1ヶ月

メナヘム 10年

ベカフヤ 2年

南北時代の最盛期

ヨナ 29年

アマツヤ ♡

ウジヤ ♡ 52年

ヨタム ♡ 16年

アハズ ☠️ 16年

ヒゼキヤ ♡ 29年

ミカ

イザヤ

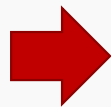
【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



預言が告げる、三つの時代の出来事



南北時代

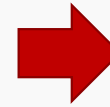


① 直近の
苦難

メシア初臨



② 主の日
大患難時代



③ 回復
メシア再臨

天上の礼拝

主の日



主の日・大患難時代(7年間の裁き)



教会時代

御国の時代

携拳

反キリストとイスラエルの契約

封印の裁き

ラツパの裁き

反キリストが契約破棄

鉢の裁き

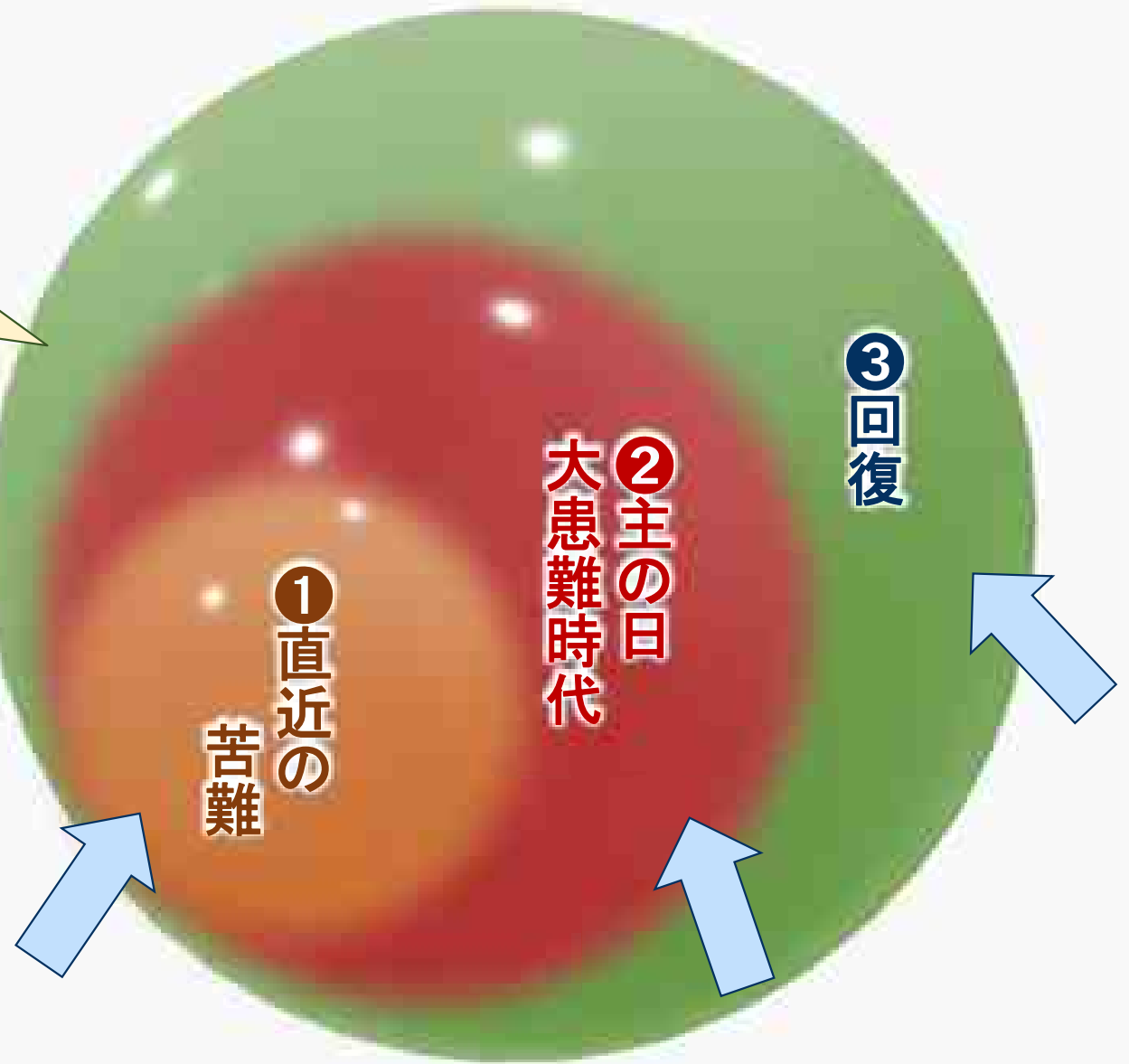
イスラエルの民族的回心

メシア再臨

3Dで預言を捕らえる

シームレスな
かたまりとして
とらえよう

見る角度で
違う時代が
浮き上がる





I. エルサレムの過去・現在・未来

イザヤ書29章17～23節

1900年頃のエルサレム

過去のエルサレム サレムの王 創世記14章

「また、サレム*の王メルキゼデク*は、パンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。」

*“平和” * “義の王”

■ 北の帝国を撃破して凱旋したアブラハムを
サレムの王がぶどう酒とパンを持参し、祝福した。

【メシアの型・メルキゼデグ】 ヘブル7:3

「父もなく、母もなく、系図もなく、生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされて、いつまでも祭司としてとどまっているのです。」



王であり
祭司

メルキゼデグ

過去のエルサレム 奪取 II サムエル5章他

- ヨシュアが奪えなかったエルサレムを、ダビデが、エブス人から攻め取った。
- エルサレムを都とし、契約の箱を担ぎ上った。
 - ➔ ダビデの王の系譜が守られ、子孫からメシアが誕生すると主が告知(**ダビデ契約**)
- ダビデが準備をし、子ソロモンが神殿を建設。
 - ➔ 以降、**神の栄光**が神殿に宿った。



契約の箱とダビデ

過去のエルサレム 捕囚から中間時代

- バビロニアにより滅亡。神殿も破壊(BC586)
都の住人の多くが捕囚としてバビロンへ連行。
- 70年後、ペルシャにより捕囚から解放。
帰還した民により城壁と神殿が再建。
→ 神殿に神の栄光は宿っていなかった。
- ペルシャ → ギリシャ → ローマと、支配下に。
ローマ傀儡の王ヘロデが、神殿を大改修。



過去のエルサレム メシアと都と神殿

- メシアとして来られたイエスは、律法が定める祭りの度にエルサレムに上った。
- 腐敗し、汚れた神殿をきよめ、ご自身こそ、神殿だと宣言された。→**メシアこそ真の神殿**
→イスラエルは公式にメシアを拒絶。
- 過越祭前、最後の**入城**では、エルサレムを待つ裁きを思い、涙された。
→40年後(AD70)、ローマにより陥落



過去のエルサレム 都でのメシアの受難

- エルサレムでメシアは捕らえられ、都を引きまされ、城壁の外のゴルゴダで十字架刑に。
- メシアは私たちの罪のため、**十字架で死なれ**、近くの**墓に葬られ**、三日目に**復活された**。
- 都は、暗黒で包まれ、大地震に襲われ、神殿の奥の至聖所を隔てる幕が引き裂かれた。



過去のエルサレム 昇天・聖霊降臨

- 40日後、イエスは栄光の姿でエルサレムのオリーブ山から**昇天**された。
- 50日後、五旬祭のエルサレムで祈っていた弟子たちに**聖霊**がくださった。
- ペテロが、イエスこそメシアだと宣言すると、3千人が信じて、洗礼を受けた。

教会も、エルサレムから始まった



過去のエルサレム 異邦人伝道

- 迫害でエルサレムを散らされた弟子たちは、
サマリアで、カイザリアで**福音**を告げた。
→ サマリア人、**異邦人**が救われていった。
- パウロ、バルナバが派遣された伝道旅行で
さらに多くの**異邦人**が救われた。
- エルサレムで使徒と長老たちの会議が開催
→ **異邦人**は割礼を受けなくとも、
ただ福音によって救われると確認された。



過去のエルサレム エルサレム陥落

- 困窮した**エルサレム教会**のため、ユダヤ人からの恵みに物質的に返すため、異邦人が集めた献金をパウロは命がけでエルサレムに届けた。
- AD70。エルサレムはローマによって**陥落**。都も神殿も徹底的に破壊され、イスラエルは、世界中に離散していった。
- **エルサレムの信者たち**は、イエスの預言に従い、脱出し、難を逃れていた。



過去のエルサレム 荒れ果てたエルサレム

- 以降、エルサレムは荒れ果て、異邦人に支配された。ローマ、ムスリム、十字軍…。
- オスマントルコ(16~19C)は、木の本数で土地の課税額を決めた。不在地主の命令で木々は抜かれ、マラリヤの蔓延する湿地帯と不毛の荒野が広がっていた。
- さびれ果てたエルサレムには、わずかなユダヤ人とアラブ人クリスチャンがいるだけ。



19世紀のエルサレム

近代のエルサレム ユダヤ人移民の始まり

- 世界的な移民の時代だった19世紀末から、トルコの不在地主から土地を購入した**ユダヤ人移民**が湿地や荒野を開拓していった。
- エルサレムの人口も徐々に増えていった。やがて第一次世界大戦が勃発、エルサレムは、**英国の支配下**に置かれた。
- 欧州でも中東でも、**反ユダヤ主義**が荒れ狂い、第二次世界大戦では、ホロコーストが起きた。



東欧からのユダヤ移民

近代のエルサレム イスラエルの建国

■ 大戦後の国連決議でユダヤ人国家設立が承認。直後に周辺のアラブ五カ国が圧倒的戦力で進撃したが、イスラエルは死守。(1948年)

■ 第三次中東戦争において、東エルサレムと神殿の丘をイスラエルが占領。(1967年)

約2千年ぶりに、エルサレムが
イスラエルの手に



建国を祝う人々

現在のエルサレム 不信仰なままの帰還

「ともに集まれ、集まれ。恥知らずの国民よ。
御定めが行われて、**その日***が粃殻のように過ぎ
去らないうちに。ゼパニヤ書2:1~2」

- 現在のイスラエルは、**不信仰なままの帰還**。
 - 待ち受けるのは、**世の終わりの神の裁き***
世の繁栄の一方、反ユダヤ主義も高まる。
- 教会の**携挙**の後、**反キリスト**が現れ、
イスラエルと7年間の契約を結ぶ。
 - 神の怒りが、**大患難***として下される。



将来のエルサレム 大患難 黙示録

- 患難期後半、**反キリスト**が自ら神を名乗り、エルサレムの神殿を汚し、ユダヤ人大迫害へ。
- ついには**最終戦争(ハルマゲドン)**が勃発。エルサレムは滅ぼされ、民はペトラに逃れる。
- 民族殲滅の危機に、イスラエルが**民族的回心**。求めに応ずる形で、メシアが**再臨**。
 - ➔ 敵を滅ぼし、オリーブ山に降り立たれる。



将来のエルサレム 千年王国 黙示録20章他

- メシアが、エデンの園の状態へ世界を回復。
エルサレムが**神の王国の都**とされる。
散らされていたイスラエルがすべて集められる。
- メシアが**王**となり、公正と義で統治される。
世界中の異邦人が貢ぎ物を携えて上ってくる。
- エルサレムは、真の意味で**平和の町**とされる。
都のイスラエルは皆、**真の信仰者**だけである。



将来のエルサレム 新天新地 黙示録21～22章

- 最終的な裁きの後、死もよみも滅ぼされる。
世界は完全に一新、**天のエルサレム**が地に下る。
- 太陽も月もなく、**メシアの栄光**が全地を照らす。
神殿もなく、**メシア自身**が**神殿**としておられる。
- 都の民には、悲しみも叫びも涙もない。
すべての者は、癒やされ、きよめられた者として
主のみ顔を仰ぎ見、讃える。





II. エルサレムの苦難

イザヤ書29章1～16節

バビロン捕囚 byティソ

大患難 アリエル イザヤ29:1

「ああ、アリエル*、アリエル。ダビデが陣を敷いた都よ。年に年を加え、祭りを巡り来させよ。

*“祭壇の炉(エゼ49:16)”

“神のライオン(イザ11:7)”

…二度の繰り返しは、強い呼びかけ。

- 元来は、神殿の祭壇上部の炉の部分。
- 祭りの度に多くの供え物がされたが、不信仰のゆえに、神の目には無意味。



大患難 燃えるアリエル イザヤ29:2~3

わたしは**アリエル***を虐げるので、そこにはうめきと嘆き*が起こり、わたしにとっては**祭壇の炉***のようになる。

わたしは、あなたの周りに陣を敷き、前哨部隊で囲み、あなたに対して壘を築く。

*悲劇への哀悼と哀歌。タニヤーとアニヤー。

***都アリエル**(神の炉)が、神の燃える怒りで**祭壇の炉**(アリエル)のようにされる。



大患難 塵の中から イザヤ29:4

あなたは低くされ、地の中から語りかけ、あなたのことばは、ちりの中からつぶやく*。あなたの声は、死人の霊のように地の中から出て、あなたのことばは、ちりの中からささやく*。

*サタンは、地に落とされ、人に罪を犯させた。

蛇は、地を這いずり塵を食らうものとされた。

■エルサレムは、サタンの手に引き渡される。

➔究極的には、反キリストによる大迫害



大患難 主の来臨 イザヤ29:5~6

しかし、敵の群れは細かいほこりのようになり、
横暴な者の群れは吹き飛ぶ籾殻のようになる。
しかも、それは突然、不意に起こる。

万軍の【主】はあなたを訪れる。雷と地震と大
きな音をもって、つむじ風と暴風と焼き尽くす
火の炎をもって。

*再臨のメシアによる裁きが速やかに下される。
「鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。
また、全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏
み場を踏まれるのは、この方である。黙19:15」



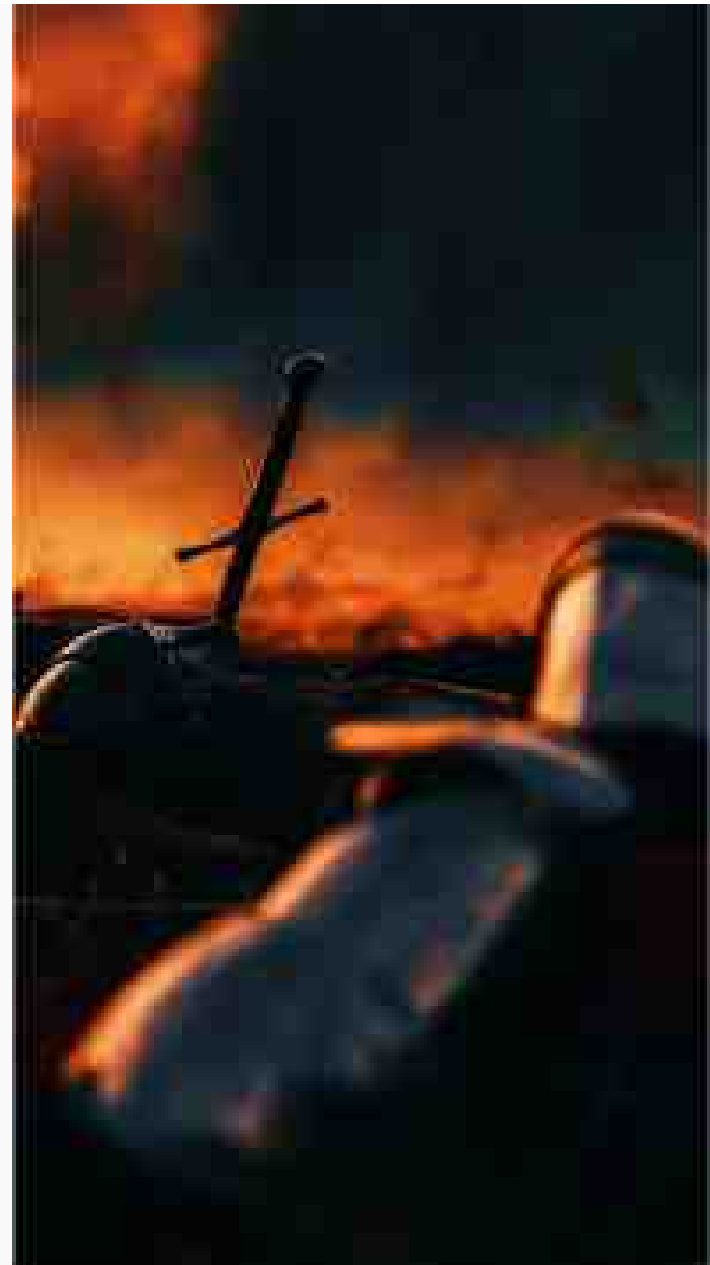
大患難 主の裁き イザヤ29:7~8

アリエルに戦いを挑むすべての民の群れ、これを攻めて、取り囲み、これを虐げる者たちはみな、夢のようになり、夜の幻のようになる。

飢えた者が夢の中で食べ、目が覚めると、その飢えは満たされず、渴いている者が夢の中で飲み、目が覚めると、実に疲れて喉が渴いているように、シオンの山に戦いを挑むすべての民の群れもこのようになる。」

■ 反キリストの軍勢は、瞬く間に壊滅する。

神の民の滅びを求めた欲望は満たされない。



警告 深い眠り イザヤ29:9~10

驚き、たじろげ。目を閉ざされて*、盲目となれ。彼らは酔う*が、ぶどう酒のせいではない。ふらつくが、強い酒のせいではない。

【主】はあなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ*、預言者というあなたがたの目を閉ざし、先見者というあなたがたの頭をおおわれた。

*都の指導者たちの霊の目は閉ざされる。

*神がもたらす霊的鈍感さ。

■預言者や先見者によって、神の言葉が告げられることもない。➡頑なにされた状況。



裁きの準備が
整えられる。

警告 封じられたことば イザヤ29:11~12

そのため、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことばのようになった。読み書きのできる人に渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「それは封じられているから読めない」と言い、

また、読み書きのできない人にその書物を渡して、「どうか、これを読んでください」と言っても、「私は読み書きができない」と答えるであろう。

■ 与えられた預言も誰も理解できなくなる。



警告 人間の命令 イザヤ29:13

主は言われた。「それは、この民が口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、その心がわたしから遠く離れているからだ*。彼らがわたしを恐れるのは、**人間の命令***を教え込まれてのことである。」

*主イエスが**偽善者**の批判に引用(マタイ15:8)

*聖書を理解できなくなったイスラエルは、**人間の命令(口伝律法)**、**偽善**に陥っていく。

■メシアが来られた時代には、**口伝律法**が、聖書と同等の権威を持つまでになっていた。



律法主義が
偽善を生む

大患難 知恵の滅び イザヤ29:14

それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び、不思議なこと*、驚くべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」

*“不思議”は、神のご性質の一つ

■イスラエルが誇る、あらゆる人間の知恵が、無意味と化すほどの大患難が下される。

→あらゆる偽善は暴き出される。

無力さを思い知らされることが、真実の悔い改めの備えに!!



警告 偽善者 イザヤ29:15

わざわざいだ。【主】に自分のはかりごとを深く隠す者*たち。彼らは闇の中で事を行い、そして言う。「だれが私たちを見ているだろう。だれが私たちを知っているだろう」と。

- *究極は、十二使徒をも完全に欺いたユダ
 - しかし、主イエスは見抜いておられた。
- 神を欺く偽善者は、神の裁きの真実をも欺き、自らの身に裁きを招いている。



警告 陶器師 イザヤ29:16

ああ、あなたがたは物を逆さに考えている。陶器師を粘土と同じに見なしてよいだろうか。造られた者がそれを造った者に「彼は私を造らなかった」と言い、陶器が陶器師に「彼にはわきまえがない」と言えるだろうか。

- 神に造られた者にすぎないのに、創造の業を否定し、神を非難する愚かさ。
- 「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。ヨブ1:21」





Ⅲ. エルサレムの回復

イザヤ書29章17～23節

イスラエルに咲くアーモンド

神の王国 教会時代の恵み イザヤ29:17

もうしばらくすれば、確かに、レバノン*は果樹園に変わり、果樹園は森に見える*ようになる。

*歴史上は**異邦人**の地。約束の地の一部(申1:7)

神殿建築に用いられたレバノン杉を産する。

*神の実り = 救われる者が**異邦人**に起こされる。

➔逆にイスラエルは森のように閉ざされる。

■教会時代、福音は**異邦人**に宣べ伝えられ、

神の契約の恵みに**異邦人**が接ぎ木された。

➔実りは、**異邦人**からもたらされていく。



神の王国 メシアの到来 イザヤ29:18

その日*、耳の聞こえない人が、書物のことばを聞き、目の見えない人の目が、暗黒と闇から物を見る。

*メシア来臨の時。究極が再臨の時。

■洗礼者ヨハネへのメシアの言葉 マタイ11:5

「目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。」



盲人を癒やすイエス

神の王国 メシアの到来 イザヤ29:19

柔和*な者は【主】によってますます喜び、貧しい者はイスラエルの聖なる方によって楽しむ。

*へりくだった。貧しい。苦しみ悩む。

■主の日には、逆転が起こる。

→世で誇る者が引き倒され、

主の前に貧しく、謙遜な者が上げられる。

■「心貧しい者、悲しむ者、柔和な者は幸い」

→神の王国につながる「幸い章句(マタ5:3)」



山上の垂訓

神の王国 偽善者への報い イザヤ29:20~21

横暴な者はいなくなり、嘲る者は絶え果て、よこしまなことを企む者はみな絶ち滅ぼされるからだ。彼らはことばで他人を罪に陥れ、城門で戒めを与える者に罾を仕掛け*、正しい人を、理由もなく押しつける。

*城門(都の統治機関)の指導者を貶める

■偽善者たちは、預言者を殺し、メシアを死においやり、弟子たちを迫害した。

→悪者は地上から一掃され、報いを受ける



パリサイ人の陰謀

神の王国 ヤコブの家の回復 イザヤ29:22

それゆえ、アブラハムを贖い出された【主】は、ヤコブの家*についてこう言われる。「今からヤコブは恥を見ることがなく、今から顔が青ざめることはない。」

*イスラエル

■大患難を経て、イスラエルは民族的回心に導かれ、神の王国の永遠の民とされる。

→二度と神に見捨てられることはない!!



イスラエルの象徴・ぶどう

神の王国 主への恐れ イザヤ29:23～24

彼(ヤコブ)が自分の子らを見て、自分たちの中にわたしの手のわざを見る*とき、彼らはわたしの名を聖*とし、ヤコブの聖なる者*を聖として、イスラエルの神を恐れるからだ。心迷う者は理解を得、不平を言う者も教訓を得る。」

*主がイスラエルを完全な救いへと導かれた。

*完全に分かつた *イスラエルのメシア

■ 主の計画を理解しなかった霊的幼子も、理解し、教訓を得るように育まれる。



主への恐れが
知恵の始まり



IV. まとめと適用

偽善と決別し、残れる信仰者として歩もう

オリーブ山からのエルサレム

イスラエルの過ちの過程

- ① 偶像礼拝 …自らの欲望を正当化し、神以上のものとした。
 - ② 律法主義 …うわべだけを取り繕い、
形式的な人の教えを第一とした。
 - ③ 偽善 …神を偽り、欺き、真の信仰者を迫害した。
- 自分自身の欲望に妥協すれば、信仰は形式に堕し、
神をも欺き、真の信仰者を排除し、最後には裁きと滅びに至る。

偶像礼拝→律法主義→偽善者の末路

■ **偽善者の本質**を示す、主イエスが引用されたイザヤの預言

『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。マタイ15:8～9』

■ **偽善者の末路**

「しかし、主人はあなたがたに言います。『おまえたちがどこの者か、私は知らない。不義を行う者たち、みな私から離れて行け。』あなたがたは、アブラハムやイサクやヤコブ、またすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分たちは外に放り出されているのを知って、そこで泣いて歯ぎしりするのです。ルカ13:27～28」

信仰者と地域教会を蝕む 偽善の罟

- **霊的プライド**が、偽善を生み出す土壌となる。
- 罪を指摘される時が誰にもある。謙遜に受け止められるかどうか。**他者からの指摘を拒む**のは、自らのプライドを優先する偽善者
- 拒み通してプライドを手放さない人は、救われてはいないだろう。実から判断しよう。**言葉と行動が乖離**しているのが偽善者だから。
- 古い自分が死に、打ち砕かれて新生したのがクリスチャンだ。**悔い改め**こそ、クリスチャンが行使できる**最大の特権**だと知ろう。

偽善者に追従する者の末路

「しかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、仲間のしもべたちをたたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ報いを与えます。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。マタイ24:48~51」

- 不信仰者は、信仰者を非難、迫害し、偽善者と世の富を享受する。
 - ➔ 不信仰者にも、偽善者と同じ報いが与えられる。

偽善者の側につく者にも、厳しい神の裁きが待つ

★ 目を覚ましていよう 主に忠実なしもべとして ★

- 日々、御言葉に堅く立ち、自分自身の心を見張っていよう。罪を指摘されたらすぐに悔い改めよう。
- 時に厳しい忠告も与えてくれる、教会の兄弟姉妹を大切にしよう。主の家族とは、主の前に、互いに誠実に、成長しあう関係性だ。
- イスラエルの残れる者のように、神への信頼を保ち続けよう。
- 「この私に、誇るべきものなど何もない」
私たちが、いつでも立ち返るべき、主による召命の原点だ。

■コリント人への手紙第一 1:26～31節

兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。

有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

■コリント人への手紙第一 1:26～31節

肉なる者がだれも神の御前で誇るべきでないようにするためです。

しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

**主の計画通りに、何もない私が召された。
ただ主を誇り、打ち砕かれつつ歩んでいこう!!**

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ}罪を^{つみ}重ねてきました。
ひび おか つみ こくはく つみ
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神のみ子^こイエス・キリストが、
つみ あがな じゅうじか し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ

②墓に葬られ、

みつかめ ふっかつ

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

よ しんこうしゃ こどく のこ もの おも
世にあって、信仰者は孤独です。イスラエルの残れる者を思います。

かれ て なに しゅ ほこ
彼らはその手に何もなくとも、ただ、主だけを誇りとしました。

じぶん よ かし わたし しゅ まえ てばな
自分のプライドや、世の価値を私は主の前に手放します。

しゅ ほこ しゅ しめい つか もの みちび
主だけを誇りとし、主の使命に遣わされる者と導いてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」